岡山市子ども・子育て会議　平成27年度　第１回放課後児童クラブ部会（議事録／要約）
日時：平成27年11月４日（水）午後２時～４時
場所：本庁舎議会棟３階　第１会議室

開会
・成立確認
　委員７人中５人出席にて、過半数の定足数を充足し成立を確認。
議事
・資料確認
・傍聴許可

（１）「放課後子ども総合プランについて」
事務局　　資料１～資料４及び追加資料を一括説明
部会長　　これまでも国は放課後子どもプランということで、放課後児童クラブ（学童保育）と放課後子ども教室を連携して進めるということを言っていた。今度は放課後子ども総合プランということで、より一体的に強力に連携していくことを国は市町村に求めてきている。
　岡山市の場合は、岡山っ子育成局で放課後子ども教室と放課後児童クラブ（学童保育）を担当しており、これは岡山市の強みだと思う。
委　員　　厚生労働省と文部科学省から事業が来ているようだが、放課後児童クラブと放課後子ども教室を一体化でやらないといけないのか。
部会長　　いけないというわけではない。程度の問題である。
事務局　　それぞれの役割をつなげて、連携を取り行うにはどういうところが主になるかとは思う。一体化ではなく、一体型という形で、努力義務として捉えている。
委　員　　放課後児童支援員さんはご存じなのか。
事務局　　この総合プランの研修を11月30日に行う。そこで放課後児童クラブの支援員と放課後子ども教室の指導者の両方の方々に集まってもらい、研修を行う予定。
部会長　　もともと、放課後子ども教室と放課後児童クラブを連携して進めなければならないと言われていたが、我々の議題の中では、放課後児童クラブの改革のほうが急だったので、特化して進めてきた。より広げた形で子どもの放課後のあり方をどうするかということが非常に重要になっている。
　放課後に子どもたちは差がつくと、最近言われるようになってきており、放課後や土曜日のあり方が急務になっている。子どもの放課後を考えたら、もっと連携、一体的にやるべきじゃないかという動きが非常に強くなっている。
　ただ、ここの課題は、そうは言っても放課後児童クラブは長い歴史があり、文科省は文科省で、放課後子ども教室やその前のプランや取り組みがある。いきなり連携プランといっても、それぞれ、すでにやっているので、なかなか難しいところが課題なのではないか。
委　員　　以前、この部会の中でも申し上げたことがあるが、放課後児童クラブというのは子どもが自分で帰らなければならない場所で、生活の場。子どもが自分の意志で毎日通うというか、帰っていかなければいけない場所。
　一方、この放課後子ども教室というのは、全児童を対象にしていて、行くか行かないかは子どもの自由意思で、行きたい時だけ行けばいいというもの。
　だから、そういう意味においては、大人の目線から見ると、放課後に子ども達が遊んでいるようにしか映らないかもしれないが、子ども側から言わせると、多分全く別の場所だと思う。別の場所だから、当然求められる役割も違う。私はやはり本質的には全く別なものだと思っている。
　一体的に行うことによる子どもにとってのメリット、デメリットは支援員、保護者の立場でもあると思うので、少し研究し、考えながら、どうい

う形で一体的にするのが一番子ども達のためになるかということを、しっかり議論し、良い形で連携なり一体ということを進めてほしい。
私は基本的には２つは違うものというのが一番根底にある。

部会長　そういうご意見もあるとは思う。ただ、放課後子ども教室等の活動というのは社会教育の取り組みで、学校教育とは違う。学校とは違う取り組みということでは、多いのは世代間交流。小学校の先生だけでは難しいことについて、地域の高齢者と触れ合いながら世代間の交流を教育的に考えていこうという場。
放課後児童クラブの場合は、生活の場ということで、違いがある。放課後児童クラブの岡山市版のやり方が根づいているので、イメージしにくいというのは間違いないと思う。どういう一体や連携のあり方というのが望ましいのか、こういう取り組みがあるということを、もう少し協議し、先駆的な事例も見せてもらったりする必要がある。
もう一つ大切なことで、ここに本当はもう一つ、学校支援地域本部という取り組みが入ってくる。そうすると、学校支援と放課後と、それから放課後児童クラブ、土曜日のあり方というものが、今まで別々にやっていたものを総合してやりなさいと、これらを文科省も進めようとしている。その時に、別々にやるのは難しいから、調整するコーディネーターの人が必要になり、そのコーディネーターもこれまでは放課後支援のコーディネーターと学校支援のコーディネーターとかが別々にいたが、そのようなコーディネーターを市町村レベルで統括コーディネーターとして置こうと、文科省案で出そうとしている。
岡山市の場合は地域協働学校（コミュニティー・スクール）がある。その地域協働学校という場で、それぞれの学区ごとに子どもの放課後のあり方を考えていくような協議の場をつくって促していかないと、市や行政がトップダウンで連携しなさいといっても、なかなか難しい。
また、パイが限られており地域のボランティアを取り合っている。結局セクショナリズムになって主義になってしまったら問題じゃないかということが課題となっているようだ。

委　員　コーディネーターという立場の方が、学習支援ボランティアのコーディネーターであるとか、地域支援ボランティアのコーディネーターの力がとても大きいと思っている。このコーディネーターの実力というか熱意というか、これが実現していくかどうかのキーになるのではないか。
今後、総合的にどちらの立場も考えながらボランティアの人たちを育成したり組み合わせたりする人を、どうやって養成していくかということが、大事なのではないか。
ある意味、ボランティアに頼るという安易なことでは、地域によっては均一な状況が確保できない。今後この仕組みが国からおりてくるとすれば、いかにコーディネーターを養成していくかということが課題。熱意を持って、教室とクラブと地域の組み合わせができるような人をつくっていくということを、盛り込んでほしい。
学校教育と離れて、地元でどう過ごすかという子どもたちを、地域が育てていくという新しい考え方を地域の人にも理解していただき、これからは地域の人が子どもの学校が終わった時間を、いろんな方法で育成していくのだという様に、様々な立場からの情報を提供し、地域に理解してもらわないと協力を得られない。そういう意味での情報提供とか教育とか育成とかということに今後、力を入れたプランをつくって欲しいと考えている。

部会長　コーディネーターの育成や養成が、やはり鍵を握っている。
ただ、１つ気を付けなければならないのは、コーディネーター１人に頼ってしまうと、そのコーディネーターがいなくなったら、取り組みがダメになってくるというケースもあるということ。組織作りとか、体制を学区ごとに考えていくということが大切。それぞれの学区ごとに協議していく

仕組み作りを考えていくということが大切だと思う。
　青少年育成協議会とかが地域によってはあり、子どもの放課後や青少年育成について話し合う場があった。

委　員　　放課後子ども教室を作って５～６年ほどやっていたが、ある程度リーダーになった人の負担が大きくて、うまくいかなかった。
　その後、子ども会とか、少人数の一緒に通学する班などで、学区内の様々な場所でお祭りを行っている。トップに立っている方は大変そうだったが、やり始めて今年３回目で、地域に趣旨も理解されるようになった。本当に立派なリーダーを育成して、うまく繋いでいかなければと思う。
　また、共働きの家庭の子どもは基本的なことができていないところがあると言われる。小学校１年生というと、まず帰って宿題をするのが基本と言う様な、学年によって重視すべきポイントを大事にして、生活習慣を大事にした育成の仕方をしてあげるなど、放課後児童クラブにプラスアルファのシステムも取り入れてほしい。

部会長　　生涯学習や社会教育の視点から子どもの放課後の支援のあり方というのを、子ども教室や学校支援地域本部とかで取り組んで研究してきたが、そうすると、どうしても放課後児童クラブの取り組みということが係ってきて、今度は放課後児童クラブという福祉の壁がぶつかってくる。福祉の放課後児童クラブの取り組みをしていたら、教育のことや学校のことだとか公民館のことになり、教育委員会とはやはり場所が違ってくる。
　常々、子どもの放課後の支援をどのように考えるのか、ということについて協議する場が大切だと思っていた。
　倉敷市でも委員をしているが、倉敷市は逆に放課後子ども教室と学校支援地域本部を教育委員会の中で取り組んでいる。だから、学校支援地域本部と放課後子ども教室との連携に関しては、倉敷は、今、一緒に会議をやろうということで、うまく進んでいる。ただし、放課後児童クラブとのかかわりをどうするのかが逆に出てくる。
　そういう点ではこの岡山市の放課後児童クラブの支援、取り組みしている人と、こういう放課後子ども教室や社会教育の人と一緒に協議して、何か良い取り組みを見させてもらったり、話を聞いたりして考えていくということが大切で、こういう機会を大切にしてもらいたい。このような、繋がるという場がなかなか今までなかった。
　こういう形で、プランに後押しする形で何か連携して取り組みができるということがあると良いと思う。無理のないところから一緒に取り組みしてみようかということで、繋げていけたらと思う。
　もちろん国の総合プランとして数値目標があり、こういうふうにしなさいというのはわかるが、なかなか難しいので、できるところから何かやっていけたらどうかと思ったりする。

委　員　　今、放課後児童クラブの支援員の人事のほうで困っているような状況なので、放課後子ども教室をどういうふうにするとか、というところまで手が届かない。今やめる人をどういうふうにして保留していこうかと思う。
　放課後子ども教室を５時までですると、５時から放課後児童クラブに行く。それでも、やはり負担金7,000円とおやつ代等がいる。
　今、私のところは放課後児童クラブが５時までしか開所していないので、今後は子どもがいなくなるような状態になる。放課後子ども教室があったら、そちらだけ行って、帰ればいいこと。市内には５時までの児童クラブも少々ある。そういうところは、放課後子ども教室は毎日ではないにしても、週に２回くらいだろうけれど、負担金などの問題もあるから、放課後児童クラブへは行かなくていいよ、というご父兄も出てくるのではないかと思う。そうなると放課後児童クラブの現場には支援員さんがいなくなる。辞めていく。
　私は、最初から、昭和52年から運営委員をしているが、最初は保育をし

てくれれば、もう勉強なんて何も見なくていいよ、子どもをみてもらったら、それでいいよというのが始まりだった。それが今は資格まで必要と言われるような時代になった。認定資格研修を受けたらいいと言われても、今の支援員の人たちも、別の人に支援員を変わってほしい、専門の人を入れてほしいとか言っている。保護者も口には出さないけど、やはり希望される。それが支援員さんにはものすごく肩の荷が重いようだ。そういうところもあるというのを皆さんに知っていただけたらと思う。

委　員　　今の問題はうちの地元にもあり、支援員の待遇がきちんとされれば、勉強する意欲も出るだろうし、良い方が来てくれる。そして放課後児童クラブで過ごす子どもたちの第２の家庭が確保できる。子どもたちにとっては自分の本当のおうちの、もう一つのおうちという場所である。そこにいて、なお放課後子ども教室なのか。

委　員　　第２のおうちへ帰って、さらに本当のおうちへ帰る。それから、放課後児童クラブに行っていない子は、放課後をいつも意味なくとか、あまりかかわることなく、もう少しできることがあったのにという今の不足のところを教室ができることによって、より豊かになるという。学校と放課後児童クラブの間にもう一つ、価値のある空間ができるような意識で、それを地域の人たちでつくり上げていくというイメージができればいいなと思っている。

部会長　　５番（資料１）のところに関係者への研修というふうにあるが、これは放課後子ども教室と放課後児童クラブが連携した取り組みとかを聞いたりするフォーラムなどを企画してもらうというのも良いのではないか。

それからもう一つは、形に可視化していくという点で、少しずつでも良いから、モデル地域で「見える化」していくということも、一方で大切になってくるのではないかと思う。

いずれにせよ、将来を担う子どもたちの放課後をどう考えていくのかをしっかり考えていかなければ、今のこの厳しい生活や格差とかの問題を考えてみると、非常に重要な課題になっていると思うので、皆さん方と一緒に考えていけたらと思っている。そうした皆さん方の意見を参考に、また行政の方で検討してもらい、そして行動計画の策定に繋げていきたい。

委　員　　部会長から具体的なお話を伺って、地元に放課後子ども教室があるわけではないのだが、そのようなことが、クラブの中の活動に入ってきていると思った。

私のところは５つの小学校がくっついた地域で、特殊な状況なので、連携がなかなかできていない部分が多く、放課後児童クラブも地域に理解をしていただかないと応援してもらえない。だから、なるべく応援してもらえるような放課後児童クラブにしようということで、私もＰＴＡ会長をしている時に、地域と放課後児童クラブを繋げるということをやった。そういう成果も多少出て、連携ができるようになってきていて、「岡山市の地域の子どもは地域で守り育てる」という理念に合った形で、うちの児童クラブではある程度、地域の方が子ども教室のようなかかわりを放課後児童クラブの方にしてくれている。

あとは、卒業した子ども達で、今、現役の中学生や高校生だが、夏休みになるとボランティアに帰ってきてくれる。夏は支援員が足りなくて忙しいというのは自分たちが身をもって経験しているから、中高生が支援員のサポートをするような形で入ったりしている。

そのような形をもう少し発展させた仕組みにしていけば、仮に地域協働学校という箱ができなくても、同じようなことが実現して行くという形になってくると思う。

部会長　　放課後子ども教室はないけど、実際にそういう取り組みをしていることはあると思うし、逆もある。

例えば名古屋市は、放課後子ども教室を非常に一生懸命やっていて、放課後子ども教室が放課後児童クラブの役割を果たしているケースも見られ

る。それはやはりそれぞれの地域の形があって良いし、それから確かに補助金をもらって補助事業とするのではなく、「うちの地域はそういう取り組みが回っているのだ」ということでも良いと思う。
ただ、それを継続するためにコーディネーターが必要であったり、そのような時には、やはり補助事業であったほうが、それが継続してうまく回る。
あるいは、最初のエンジン立ち上げるときには補助事業を使うほうがいいケースもあると思う。そのあたりはケース・バイ・ケース。
もう学校と地域と家庭が連携してない学区は無い訳だから、補助事業やこのプランをやってなくても、そういう取り組みをやっているところもある。それを大切にしながら、どのように今後、押ししていくかということが大切になってくるのではないか。

報告
（１）「本市の放課後児童健全育成事業の進捗状況について」

事務局　　資料説明

委　員　　アドバイザー派遣を始めて、どんな成果が得られたか。支援員がどういうふうな感じで支援を受けているのかという感想を聞いてみたい。

事務局　　今年度、経理アドバイザー２人と活動内容についてのアドバイザーを１人採用した。経理については例えば保険の加入状況や帳簿のつけ方を聞かれたり、今年度から労働保険の財政支援のための加算を新設したことで、その加入の仕方について伝えたり、アドバイスしている。
ほぼ、どちらかのアドバイザーが90クラブを回った状況。今後まとめて、どこが問題なのかというところも検討していく予定。
アドバイザーも含めて「質の改善」への取り組みだが、（各児童クラブの会長で組織する）児童クラブの連合会の理事会で、部会を設け、様々な方面でご意見をいただき、引き続き支援員に関する処遇改善等に取り組む必要がある。
また、経理関係の負担についても、改善に取り組んでいくような話し合いを積極的にしているところで、今後、皆様にある程度の事をお話できるような形になれば良いと考えている。

部会長　　こうしたアドバイザーの取り組みというものの成果とか、それから総括、課題というのが見えてきたことということについては、また改めてご報告いただけたらと思う。
今日は、特に放課後子ども教室と放課後児童クラブの連携や一体化というところで話が中心で、皆さん方のいろんな意見が出て、そうしたものを行動計画の策定につなげていっていただきたいと思っている。
それではこれで、部会を終了とする。

午後３時40分　閉会